

### 編集後記

第64巻4号(2018年12月号)をお届けいたします。本号では、例会抄録が多くの分量を占めることになりました。日本医史学会の月例会は順天堂大学をはじめ東京の近隣で開催されることが多く、ご多忙中なかなかご参加がかなわない会員も多いかと思いますが、その意味でも、抄録掲載は本誌の重要な機能のひとつであるかと思えます。例会抄録として本号掲載の13本の原稿のうち、7本は2017年3月25日開催「日本医史学会創立90周年記念特別例会」、5本は同年11月25日開催「シンポジウム：わたしはなぜ医学史・医療史をまなぶのか」におけるご発表の抄録です。前者では、日本医史学会のみならず関連5学会の歴史と現状についてのご報告がありました。また後者は、学会総体としてのみならず、個々の会員がどのような経緯・問題意識のもとにそれぞれのご研究を進めてこられたのかについて、4人の先生方からお話を伺う貴重な場でありました。原稿が揃うタイミングや各号の紙幅などに関連する編集上の都合とはいえ、比較的大型の例会2回分の抄録も含まれているということで、医史学について考える材料が詰まった号になっているかと思えます。味読していただければ幸いです。

(永島 剛)